

TOPICO* 豊中市内で8校区目の地域自治組織 上野地域連絡会が設立されました

令和元年（2019年）7月7日、「上野地域連絡会」が設立されました。「安心・安全・住みたいまち上野」を目標に、校区住民全員が参画できる地域自治組織をめざしたいと語る渡邊会長。設立への思いを聞きました。



Q. どうして地域自治組織を作ろうと思ったのですか？

A. 上野校区は昔から防災意識が高く、各自治会などの小さい単位でもしもの時の備えを積み重ねていました。そして、「上野校区として防災に取り組むべき」という声が大きくなり、設立に至りました。

Q. 実際に立ち上げてみての感想をお願いします

A. 先日、上野地域連絡会で初めての防災訓練を行ったのですが、その感想で「地域の方々との交流や貴重な話が聞けてよかった」という声がありました。人と人との関係が希薄になっている中で、地域自治組織という新たな受け皿ができて安心感につながっていること、住民同士が交流する場を設けることができ本当に良かったと思います。

一方、会議や事業の運営に関わる人の多くが日中働いているので、情報の伝達や共有に難しさを感じています。しかし、一部の人だけでなく、多くの人に関わりみんなで話し合っ、物事を進めていきたいです。発行している広報誌「みんなの上野」にはそんな思いを込めています。



上野地域連絡会会長
渡邊 美代子さん

Q. これから地域自治組織を立ち上げたい校区の方々に向けて一言お願いします

A. それぞれの校区には独自の色がありますので、他校区の活動を参考にしながら自分たちの校区に合った取り組み方を大切にしてください。様々な地域課題に対して行政と一緒に解決する過程には、地域が一丸となる「仲間づくり」が必要です。一朝一夕でできることでも、小さな声だけでできるものでもないですが、日々の積み重ねが実を結ぶ時が来ると思います。

Q. 今後の展望をお聞かせください

A. 子どもの割合が高い地域ではありますが、高齢化が進んでいることは間違いのないと思います。特定の組織だけに頼るのではなく、上野地域全体で考えていかなければと考えています。高齢化社会を意識したような防災訓練などを行うこともしていきたいです。



府立豊中高校の学生さんと一緒に炊き出し



地域の小学生も避難所の設営に参加

TOPICO* 協働のガイドブック 「とよなか流 協働のコトはじめ」を発行します - 協働を楽しむ・たしなむ -

豊 中市では、協働事業市民提案制度に基づき『豊中市における「協働の文化」づくり事業』をNPO法人とよなかESDネットワークと協働で実施しています。この事業では、「協働が文化として息づくまち」をめざし、過去の協働事例や現在の制度について検証を行うことにより、これからの「協働」のあり方を検討し、また、市民と行政が「協働」についてともに学べる場を提供しています。

これまでの調査をふまえて作成するガイドブックには、協働の意義、成果、大切なことなどを、事例を通じてわかりやすく掲載しています。3月中旬に発行予定です。詳しくはコミュニティ政策課までお問い合わせください。



ちいきのわ

19
令和2年
(2020年)
2月

発行：豊中市 編集：市民協働部コミュニティ政策課



とよなか夢基金の助成を受けて活動を進める3団体にお話を伺いました。



地域や社会の課題解決をめざしてがんばる人たちを寄付というかたちで応援するしくみです。
人それぞれ困っていることや悩みは異なり、周りの人がすぐには気づけないことも。そんな課題に気づき、地域で活動している人たちがいることをぜひ知ってください。

- ① NPO法人豊中市民エネルギーの会
温暖化防止の環境教育と災害にも役立つペランダ発電講座
- ② エーネン大阪ノース
精神障害者や発達障害者を中心に活動するバスケットボールクラブ
- ③ にこにこエプロン
『親と子の笑顔を守る』お手伝い



豊中市市民協働部コミュニティ政策課
〒561-8501 豊中市中桜塚 3-1-1 第一庁舎5階
電話(市民活動係)06-6858-2041 (地域担当係)06-6858-2727 FAX 06-6846-6003
ホームページ: <https://www.city.toyonaka.osaka.jp/machi/npo/index.html>



2,000部

◆ご紹介する3団体は、令和元年度(2019年度)とよなか夢基金助成事業の実施団体です。

とよなか夢基金をとおして お金以上の価値やつながりを見つけた

Q. とよなか夢基金助成に応募したきっかけは?

小澤さん: とよなか地域創生塾(※)に参加したときに知りました。活動する中で資金面での不安があったので応募しました。

※とよなか地域創生塾とは、とよなか都市創造研究所が実施する、地域の力を高め、地域のミライを創造していく人材の育成をめざした新しい学びの場です。

三田村さん: 近所の図書館で助成事業の募集チラシを見つけたのがきっかけです。豊中で活動を広げようとするときに会場代など資金面で不安があったので、応募しました。

衛藤さん: とよなか夢基金のことは以前から知っていて、すでに助成を受けて活動している人たちからも聞いていたので、挑戦してみようと思いました。

Q. とよなか夢基金の助成を受けてどんな変化がありましたか?

衛藤さん: 外部からの講座依頼が増えました。広報の面でこの助成の力が大きかったと思います。また、自分たち以外にも同じ思いを持った人が大勢いるんだということがわかりました。

小澤さん: メンバーの目的意識や気持ちが一つにまとまったという感じ。また、いろいろな方とつながりが持て、自分たちの自信にもつながりました。団体としての視野が広まりましたね。

三田村さん: 当事者でもある自分が、とよなか夢基金をとおして社会とつながり、他団体ともつながることで、地域の中で自分に自信を持って生きることができるようになりました。居場所が必要な人に貢献していると実感でき、会場費などのお金のことは、市内にいろいろな場所や制度があることがわかり、自立してやっていると気づきました。

それぞれの活動に想いをのせて、 より広く、より深く

Q. 今後、どのように活動を広げていきたいですか?

小澤さん: 相談業務で一つ一つの相談を拾い上げ、市とも情報共有しながら関係性を築き、孤立している親の気持ちに今まで以上に寄り添って、活動を広げていきたいです。

衛藤さん: 「じぶん電気づくり講座」にファミリーで参加してくれるのがとてもうれしいです!これからは、子どもたちがもっと関われるように、活動を広げ深めていくことを考えています。

三田村さん: 他の団体とも連携して、いろいろな居場所があるということをもっと届けたいです。バスケットはチームスポーツなので、自然と対話が生まれます。一方で、ボールをパスすればコミュニケーションが成り立つ非言語活動でもあります。話すのが苦手な人、運動が苦手な人、いろいろな人がいますが、いろいろな選択肢があることを広めたいです。



未来の豊中を見据えて

Q. 活動を継続することでどんな豊中になったらいいと思いますか?

三田村さん: エーネン大阪ノースの活動では、支援者と当事者が垣根なく、対等な関係性を築くことを大切にしたいと思っています。障害のある人たちが感じる制度的なバリアも偏見もなくなっていきような、本当の意味でのインクルーシブな社会になってほしいと願って活動しています。

小澤さん: 豊中は地域差が大きいと感じています。でも子育て世代の母親が孤立しているという意味ではどこも同じ。人は人でないと支えられないのです。だからもっとフラットに、色々な団体が活動していることがわかりやすくなれば良いのでは。地域で地道にコツコツがんばっている団体の活動をみんなが支え合える豊中になればと思います。

衛藤さん: 豊中は住宅地が多いので、個人でできるということが大事になってきます。とよなか夢基金のおかげで「自分で電気が作れるのがうれしい、楽しい」という市民が確実に増えています。そんな個人の活動を後押ししてくれるような仕組みが市の制度としてあればいいと思うし、このような活動が豊中でもっと広まり、持続可能なまちの発展につながるいいなと思います。

令和元年度(2019年度)の活動実績

活動に興味を持たれた方は、下記のQRコードから各団体のホームページ等をご覧ください。

NPO法人 豊中市民エネルギーの会



すてっぷ(玉井町)や環境交流センター(中桜塚)でペランダ発電講座を開催。令和元年(2019年)12月17日現在で、「じぶん発電所長」36人誕生!



エーネン大阪ノース



第五中学校(立花町)、第十二中学校(浜)や障害福祉センターひまわり(稲津町)でエンジョイバスケットやヨガを開催。現在、全国精神障がい者バスケットボール大会二連覇中!



にこにこエプロン



親の孤立を防ぐための相談事業「おばあちゃんの子育て相談室」、講演会、学習会などを千里文化センター「コラボ」(新千里東町)や蛍池公民館(蛍池中町)などで実施。



とよなか夢基金 検索

とよなか夢基金に寄付することで、こうした活動に賛同する!応援したい!というお気持ちを形にすることができます。みなさまから頂いた寄付金は、市が受けとって積み立て、毎年さまざまな市民公益活動への助成金の財源として活かされます。詳しくは、豊中市ホームページ「とよなか夢基金」をご覧ください。



助成事業:「温暖化防止の環境教育と災害にも役立つペランダ発電講座」

■ 蛍池南町在住。「地球温暖化防止の取り組みを次世代につなげたい!」持続可能な社会のために活動を続けている。

特技 皮から作る餃子づくり



助成事業:「精神障害者や発達障害者を中心に活動するバスケットボールクラブ」

■ 服部本町在住。豊中育ち。自らも当事者として、バスケットやアートを通じた居場所づくりに励む。現在2歳の息子の育児奮闘中のパパ。

特技 ノールックパス



助成事業:「『親と子の笑顔を守る』お手伝い」

■ 豊南町在住。子育てに悩むお母さんの味方。「親と子の笑顔を守るお手伝い」をモットーに豊中市内で活動中。

特技 好奇心があり何でもチャレンジできること